

2013 年度事業報告

自 2013 年4 月 1 日

至 2014 年3 月 31 日

公1

視能障害防止および眼保健衛生の普及・啓発を図ることによって国民の健康維持向上に寄与することを目的とした健診・調査・広報・出版・支援事業と、視能に関する学問・技術の発展と優れた人材育成を図ることによって臨床現場で質の高い医療を提供することを目的とした学会・講習研修・教育事業

【1】国民への眼保健衛生の普及・向上に関する事業

1. 健診に関する調査・支援事業（以下、健診事業）

- (1) 新生児から成人に至るまでの視覚発達に関する情報をインターネットホームページに掲載した。
- (2) 視覚感受性期にある乳幼児を対象とした「目の健康チェックシート」をインターネットホームページに掲載（ダウンロード可能）するとともに、当該文書を2,500箇所各市区町村保健センターへ配布し、乳幼児期に発見し治療すべき疾患への注意を喚起した。
- (3) 三歳児健康診査での眼科検査方法を解説した「三歳児健診マニュアル」をインターネットホームページに掲載し（ダウンロード可能）、検査技術及び精度の地域格差を改善に努めた。
- (4) 国民が生涯の各時点で対象となる眼科各種健診および検診の重要性を、視覚器の発達および加齢に伴う変化と対比した健診・検診年表（仮題）作成に向けた検討を行い、国民に対して眼保健衛生の重要性の周知に向けた取り組みを行った。
- (5) 全国で開催される「目の愛護デー」関連事業へ参加協力し、眼保健衛生の普及・向上・啓発に努めた。本協会へ協力あるいは後援（名義借用）の要請があった事業は、以下の通りである。

2013年 9月15日・16日（日・祝）：目の愛護デー「Tokyo Eye Festival」（東京）

参加した視能訓練士：9名 来場者：1500名

2013年10月 6日（日）：目の愛護デー「緑内障無料検診」（和歌山）

参加した視能訓練士：3名 来場者：80名

2013年10月 6日（日）：目の愛護デー・京都「眼科一般検査」（京都）

参加した視能訓練士：14名 来場者：462名

上記のうち、東京都眼科医会が新宿西口イベント広場で主催したTokyo Eye Festivalでは、従来の「無料検診」と異なる「体験イベント」を実施して、来場者が様々な視能障害（障害）の説明を受け、体験することを通じて、眼疾患への理解と予防の大切さを啓発した。本協会は3DおよびLow Visionの体験コーナーを担当し、両眼視機能の重要性と眼疾患によって低視力となった場合に役立つ補助具を説明した。

- (6) 全国糖尿病週間において、日本糖尿病協会埼玉支部へ後援名義借用を許可し、その活動（2013年10月12日～11月17日：医療相談、検査、講演会等）を支援した。

2. 広報事業

- (1) インターネットホームページ等を通じて社会へ眼保健衛生の啓発と推進を行った。
- (2) インターネットホームページに倫理規程を公示し、視能訓練士の職業倫理の高揚と業務への責任を喚起する活動を行った。
- (3) 協会ポスターをリニューアルし、リーフレットと共に会員や関連諸団体へ無料配布して「視能訓練士」の名称および職務について国民に向けて広報を行った。

- (4) 東京都看護協会がナイチンゲール生誕記念事業として主催する「看護フェスタ」へ参加し、来場者の視力検査を行い、眼疾患予防を啓発するパンフレットおよび視能訓練士に関するリーフレットを配布した。

2013年 5月12日(日)：新宿西口イベント広場

参加した視能訓練士：4名 来場者：194名

- (5) 中学生・高校生を対象に視能訓練士の職務を、視能矯正学を学ぶ学生に対しては、協会活動を紹介する機会を積極的に設け、早期から本職や本協会への興味や理解を促した。

前者については、長崎県立長崎南高等学校の訪問学習として2年生 8名を受け入れた(2013年12月4日：帝京大学病院眼科外来において実施)。後者については、協会活動に関するCD-ROMを全国の養成校へ配布し、理事を養成校へ派遣して協会活動を説明した。

- (6) インターネットホームページの拡充を行った。

3. 調査事業

- (1) 視能矯正・訓練普及の実態調査を行った。
- (2) 視能の病態および視能矯正の実態調査を行った。
- (3) 2015年に発行する視能訓練士実態調査報告書作成に向けた準備を行った。
- (4) 新規免許取得者の就業状況調査を行い、新卒者の就業傾向を把握した。
- (5) 視能訓練士が行う業務と診療報酬との関連について調査を行い、結果をホームページに掲載した。
- (6) 日本視能訓練士協会定款施行規則を検討し、必要に応じて改定した。

4. 渉外事業

- (1) 国内関係諸団体との相互の協力について密に交流を行った。
 - 1) 監督官庁(内閣府)及び関係官庁(厚生労働省・文部科学省)へ、協会の現況について連絡交流を図った。
 - 2) 研究諸団体(日本眼科医会・日本眼科学会・日本弱視斜視学会・日本眼光学学会・医療研修推進財団・国際医療技術財団、等)と学術・技能向上の為の提携交流を図った。
 - 3) 医療技術者21団体協議会・東京都医療従事者ネットワーク連絡会に参加し、医療技術者団体間での交流を図り、医療技術者の相互理解を深めた。
 - 4) 国民医療推進協議会(会長：日本医師会会長)へ参加し、同盟団体と協力して国民皆保険制度を守る活動を行った。

2013年12月6日(金) 国民医療を守るための総決起大会

- 5) チーム医療推進協議会へ参加し、医療技術者団体間の連携を深め、医療技術者の社会的地位向上に向けた活動を行った。また、同協議会は厚生労働省委託事業として「チーム医療による災害支援」研修会を行い、関連する冊子を発行したため(ホームページからのダウンロードも可能)、本協会は前者については運営協力者として理事1名を派遣し、後者については「視能訓練士」のページに記事を投稿した。

2014年2月16日(日) 「チーム医療による災害支援」研修会(笹川記念会館) 来場者：350名

- 6) 復興庁が行う「新しい東北」官民連携推進協議会の会員に協会理事1名を推薦し、当該理事が委員に就任した。

- (2) 国外の視能矯正学分野に関係する団体と交流し、知識・技術の提携を行った。

- 1) 国際視能矯正協会代表者会議及び年次総会に出席した。

2013年国際視能矯正協会(IOA)理事会 2013年9月24-26日：ミラノ

2013年国際視能矯正協会 (IOA) 年次総会 2013年9月27日：ミラノ

- 2) アジアの友好国 (フィリピン、タイ、カンボジア、モンゴル、シンガポール等) との関係を深め、技術提携を行った。

2013年9月：モンゴル 眼科医を対象とした視能に関する講習会で講師を務めた
参加した視能訓練士：2名

- 3) 国際医療技術財団の個別研修事業に参加し、アジア友好国からの研修生を受け入れ、国内で医療技術研修を行った。

2013年10月17日 (月) ~11月22日 (金)：フィリピン研修生 1名

- 4) 国際小児眼科斜視学会設立会議へ参加し事業に協力した。

AAPOS-IPOSC (American Association for Pediatric Ophthalmology and
Strabismus -International Pediatric Ophthalmology and Strabismus Council)

2013年 7月 13日 (土)・14日 (日)・15日 (月・祝)・16日：シンガポール

参加した視能訓練士：2名

- 5) 第12回国際斜視学会の国内開催準備 (2014年12月1日~4日、京都開催) を支援した。

5. 出版事業

- (1) 日本視能訓練士協会誌第42巻) を6,000部発行し、同誌を電子ジャーナル (J-STAGE) として配信した。
- (2) 日本視能訓練士協会会報第121号 (2013年10月：6,350部)、第122号 (2014年3月：6,650部) を発行した。

6. 災害時支援事業

- (1) 東日本大震災の被災地区における眼科医療活動 (プロジェクト・ビジョンバン) へ参加協力し、主に宮城県内において被災者を対象とした眼科検診を検査面から支援した。

また、2013年10月にフィリピンを襲った台風による被災者支援として、プロジェクト・ビジョンバンが眼科診療バス「ビジョンバン」をタクロバン島へ貸し出す事業に賛同し、プロジェクト・ビジョンバン参画団体として車両の輸送や関係者の渡航費用等の必要経費を分担拠出した。

2013年3月17日~2014年1月26日 (宮城県) 17回出務、延べ48名の視能訓練士を派遣

2014年1月30日~2014年3月31日 (フィリピンレイテ島タクロバンエリア)

【2】国民に良質で安全な医療技術を提供するための視能訓練士教育事業

1. 学会事業

- (1) 日本視能矯正学会を開催し、次年度以降の学会開催準備を行った。

- 1) 第54回 (2013年) 学会の開催準備及び開催

2013年11月16日 (土)・17日 (日)：福岡国際会議場 (福岡)

学会テーマ：「明日を見つめて さあ！ここから始めよう」

学 会 長：山田 敏夫 (大島眼科病院)

名誉学会長：松井 孝明 (大島眼科病院)

参加者：1,535名 (会員 956名、非会員 315名、学生 264名)

- 2) 第55回 (2014年) 学会開催準備

2014年11月29日 (土)：京都国際会議場

学会テーマ：「The NEXT」~次世代のスペシャリストを目指して~

学 会 長：河賀 友紀 (神戸大学医学部付属病院)

名誉学会長：中村 誠（神戸大学大学院医学研究科外科系講座眼科学）

3) 第56回（2015年）学会開催準備

2015年11月7日（土）・8日（日）：東京国際フォーラム

学会長：根本 加代子（根本眼科）

4) 第57回（2016年）学会開催準備

2016年10月15日（土）16日（日）大阪国際会議場

学会長：松本 富美子（近畿大学堺病院）

(2) 日本臨床眼科学会視能訓練士プログラムを開催し、次年度の開催準備を行った。

1) 第67回日本臨床眼科学会

2013年10月31日（木）～ 11月3日（日）

会場：パシフィコ横浜（横浜）視能訓練士プログラム

テーマ：「もう一度見直そう拡大鏡選定一潜む落とし穴に陥らないために」

参加者：289名

2) 第68回日本臨床眼科学会視能訓練士プログラム準備

2014年11月13日（木）～11月16日（日）

会場：ポートピアホテル 神戸国際会議場

(3) 日本眼科学会総会教育セミナーの開催準備を行った

1) 第118回日本眼科学会総会教育セミナー

2014年4月6日（日）

会場：東京国際フォーラム

テーマ：「視空間における物体の脳内表象」

2. 講習研修事業

(1) 講演会を開催し、次年度の開催準備を行った。

1) 第29回開催

2013年6月2日（日）：有楽町朝日ホール（東京）

講演内容：「新しいOCTの概念と形態構造～正常網膜から脈絡膜疾患まで」

演者：板谷 正紀准教授（久留米大学）

参加者：702名（会員504名、非会員8名、学生186名）

2) 第30回開催準備

2014年6月8日（日）：大阪商工会議所（大阪）

(2) 研修会を開催し、次年度の開催準備を行った。

1) 第12回研修会開催 2013年6月2日（日）：有楽町朝日ホール 第29回講演会と併催

研修内容：「成人の眼鏡」

参加者：702名

2) 第13回研修会開催準備 2014年6月8日（日）：（大阪）第30回講演会と併催

(3) 光学と眼鏡に関する研修会を後援し、次年度の開催準備に協力した。

2013年8月3日（土）・4日（日）眼光学チュートリアルセミナー後援

参加者：130名

3. 教育事業

(1) 視能訓練士生涯教育制度の各教育プログラムを実施した。

1) 新人教育プログラム

講義日程

2013年7月14日(日)・15日(月・祝) 機械振興会館(東京)

受講者: 114名

2013年9月15日(日)・16日(月・祝) 難波御堂筋ホール(大阪)

受講者: 82名

技術日程 ブロック単位開催

北海道ブロック

7月21日(日) 視野検査 吉田学園医療歯科専門学校

8月25日(日) 両眼視・眼位・眼球運動検査 吉田学園医療歯科専門学校

9月1日(日) 視力・屈折検査 吉田学園医療歯科専門学校

東北ブロック

9月22日(日) 視野検査 仙台医健専門学校

9月23日(月・祝) 両眼視・眼位・眼球運動検査 仙台医健専門学校

11月10日(日) 視力・屈折検査 東北文化学園大学

関東甲信越ブロック

7月28日(日) 視力・屈折検査 帝京大学医療技術部

8月25日(日) 視野検査 帝京大学医療技術部

2014年1月26日(日) 両眼視・眼位・眼球運動検査 帝京大学医療技術部

東京ブロック

7月28日(日) 両眼視・眼位・眼球運動検査 帝京大学医療技術部

8月25日(日) 視力・屈折検査 帝京大学医療技術部

2014年1月26日(日) 視野検査 帝京大学医療技術部

東海・北陸ブロック

6月16日(日) 両眼視・眼位・眼球運動検査 愛知淑徳大学

9月22日(日) 視力・屈折検査 愛知淑徳大学

10月13日(日) 視野検査 愛知淑徳大学

近畿ブロック

6月9日(日) 視力・屈折検査 京都医健専門学校

6月30日(日) 視野検査 大阪医療福祉専門学校

7月21日(日) 両眼視・眼位・眼球運動検査 大阪医療福祉専門学校

中四国ブロック

6月16日(日) 視力・屈折検査 川崎医療福祉大学

11月24日(日) 視野検査 川崎医療福祉大学

2014年3月9日(日) 両眼視・眼位・眼球運動検査 川崎医療福祉大学

九州ブロック

9月22日(日) 視力・屈折検査 大分視能訓練士専門学校

9月23日(月・祝) 視野検査 大分視能訓練士専門学校

10月20日(日) 両眼視・眼位・眼球運動検査 熊本大学医学部山崎記念館

受講者合計: 396名

2) 基礎教育プログラム

基礎教育プログラムⅡ 開催

2013年7月13日(土)・14日(日)・15日(月・祝) 機械振興会館(東京)

受講者: 150名

2013年9月14日(土)・15日(日)・16日(月・祝) 難波御堂筋ホール(大阪)

受講者: 170名

基礎教育プログラムⅢ 開催

2013年9月28日(土)・29日(日) 機械振興会館(東京)

受講者: 視能矯正41名 視能障害39名

2013年11月30日(土)・12月1日(日) CIVI新大阪研修センター(大阪)

受講者: 視能矯正49名 視能障害50名

3) 専門教育プログラム

専門教育プログラムの実施に向けた準備を行った。

- (2) 公益財団法人医療研修推進財団が主催する実習施設指導者等養成講習会を後援した。

2013年9月14日(土)・15日(日)・16日(月・祝): 大阪医療福祉専門学校(大阪)

受講者: 63名

- (3) 施設見学研修を行った。

実習施設指導者等養成講習会修了者(全修了者)が勤務する施設で、2013年9月から2014年3月の間、希望者に対して施設の見学および研修を行った。

(実施施設: 7施設 参加者: 10名)

- (4) 「眼科スタッフビデオ」シリーズのDVDを希望者に貸し出し、技術研修に役立てた。

その他の事業(相互扶助等事業)

視能訓練士の資質向上を目的とした自己研鑽を奨励し、学術技能を評価して認定および表彰する事業

1. 認定視能訓練士に関する事業

- (1) 視能訓練士生涯教育制度基礎教育プログラムを修了し、所定の条件を満たす者を「認定視能訓練士」と認定した。(2013年度新規認定: 87名)

- (2) 専任教員認定制度の認定条件を満たす者を「専任教員」と認定し、以後5年ごとの認定更新を行った。(2013年度新規認定: 1名、認定更新: 4名、認定者合計47名)

2. 学術奨励賞に関する事業

- (1) 2013年度に発行した日本視能訓練士協会誌第41巻に投稿された学術論文の、対象論文から選考し、第54回日本視能矯正学会で学術奨励賞を授与した。

受賞論文: 「小児の発達障害の評価と支援に視能訓練士と言語聴覚士の連携が必要であった症例」

受賞者: 星原 徳子氏(河原眼科クリニック)

「附記」

2013年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な項目」が存在しないので作成しない。

以上